

(財)横浜工業会の責務

財団法人横浜工業会

理事長 佐藤 菊 正

横浜国立大学工学部教職員並びに横浜国立大学工学部卒業生の皆様にはお元気でご活躍のことと心からお慶び申し上げます。

現在、日本の政治、経済、社会の各分野は大きな変革期を迎えており、特に経済界は激しい不況に見舞われており、景気回復のために証券、金融業界に対して政府は各種の規制緩和をして経済の活性化をはかり、国際的市場における自由競争化の時代に対応しなければなりません。

戦後の50年間に科学技術とくに、情報系における進歩は著しく、産業構造は大きく変化し、情報化、国際化が進み、大学を取り巻く社会情勢も大きく変わってきました。このような背景のなかで大学改革が進められていますが、教育・研究の活性化を図ることは重要な課題であります。

(財)横浜工業会は、横浜国立大学工学部および大学院工学研究科の教育・研究活動を援助し、わが国の科学技術の発展に寄与することを目的として、工学部および大学院工学研究科教員に対する海外派遣、海外研究者の招聘、研究助成そして、大学院生に対する奨学金助成事業を実施しております。

本財団は横浜国立大学工学部（旧横浜高等工業学校を含む）創立60周年記念事業として昭和56年に設立してから平成9年度までに上記の助成事業を18回実施しており、その金額も1億円を越すに至り、工学部および工学研究科の教職員、大学院生から高い評価を受け、本財団の目的を十分に果たし、工学部および大学院研究科と卒業生との関係を甚だ深いものにしたことは慶びに堪えません。これらの助成事業は財団の基本金の果実によって支えられておりますが、昨今の著しい金利の低下により事業の遂行が甚だ難しくなっております。

幸いなことに、本財団は横浜国立大学工学部（旧横浜高等工業学校を含む）創立70周年記念事業として賛助会員制度を平成3年に制定したので助成事業の縮小の難を逃れることができました。

平成10年度研究助成金等受給者の選考は既に終わり、研究助成2件、海外派遣助成4件、海外研究者招聘助成2件、合計520万円が決定した。

特に本年度からは、海外研究者招聘助成のうち長期招聘については、大幅に助成額を増額して長期にわたり日本に滞在し、研究等に從事出来る発展途上国の比較的若く前途有望な研究者の招聘を助成目的としたことが特色であり、この助成に対し工学部では7件もの申請があり関心の高さを示している。

また、工学部関係専門有識者による講演会も本年度の事業計画として承認され、助成金贈呈式と併せて第1回講演会を開催する運びとなりました。

(財)横浜工業会第1回講演会および平成10年度学術研究等助成金贈呈式を次のように実施いたします。

日 時 平成10年7月1日(水)

午後4時～7時30分

会 場 横浜国立大学工学部内

大学院工学研究棟7階会議室

・第1回講演会

講演者 コニカ㈱取締役会長 米山高範氏

(横浜工業専門学校 S24年卒・

東京工業大学 S28年卒)

演 題 「魅力商品の開発」

・平成10年度学術研究等助成金贈呈式

なお、秋には奨学援助事業として、大学院工学研究科後期(博士課程)の大学院生5名を選考して合計240万円を実施します。

平成10年度の研究等助成および奨学助成事業費として総計760万円(平成9年度助成事業費512万円)を当てる事が出来ましたのは工学部および大学院工学研究科、工学部卒業生、賛助会員の深いご理解とご支援の賜であると厚くお礼を申し上げますと共に、今後益々のご協力をお願い申し上げます。(平成10年5月22日)

平成10年度学術研究等助成金贈呈者一覧

1. 海外派遣助成

(1件30万円)

申請者氏名	目的及び目的国	期間
建設工学科 助手 稲垣 景子	バージニア工科大学アレキサンドリア国際交流センター での研究交流と学生の研修引率 アメリカ合衆国	H.10. 7. 30 ～H.10. 8. 8
電子情報工学科 教授 土肥 康孝	第24回 IEEE 工業エレクトロニクス会議 IECON'98 に 出席、発表及び座長 ドイツ	H.10. 8. 29 ～H.10. 9. 7

(1件20万円)

申請者氏名	目的及び目的国	期間
知能物理工学科 教授 山口 益弘	金属水素系国際会議 (ISMH'98) に出席・発表 中国	H.10.10. 4 ～H.10.10.11
物質工学科 助教授 大谷 英雄	第3回アジア-オセアニア火災科学技術シンポジウム において研究発表、座長を行う シンガポール	H.10. 6. 7 ～H.10. 6.13

2. 海外研究者 招聘

(1件200万円)

申請者氏名	招聘者氏名	目的	期間
電子情報工学科 教授 河野 隆二	Novi Sad 大学 Miroslav Despotović	共同研究、講義、研究指 導	H.10.10. 1 ～H.11. 3.31

(1件20万円)

申請者氏名	招聘者氏名	目的	期間
生産工学科 教授 坪井 孝夫	アーヘン工科大学 Michael Weber	情報交換、共同実験	H.10.10. 1 ～H.10.11.30

3. 研究助成

(1件100万円)

申請者氏名	研究課題
知能物理工学科 助手 石渡 信吾	生体の刺激応答を模擬する鉄電極反応の実験的研究
生産工学科 助教授 今野 紀雄	確率的な相互作用をする粒子系の相転移現象の研究

平成9年度学術研究等助成成果報告

1. 海外派遣助成

氏名：石井一洋（生産工学科）
出張先：オーストラリア
期間：平成9年7月19日～平成9年7月27日
出張目的：オーストラリア・グレートケッペル島にて開催された第21回国際衝撃波シンポジウムに参加し、低圧下における気相デトネーション波の挙動について講演発表を行い、デトネーション伝播の不安定性機構を提言した。さらに、高エンタルピー超音速流中における噴霧着火についてポスター形式の発表を行った。また、近年盛んに研究が行われている極超音速流生成用衝撃波風洞および各種計測技術に関して最新の情報収集を行った。海外の研究者との当該分野における討論・情報交換により、本学における教育・研究に資するところが大きであった。

氏名：浅見真年（物質工学科）
出張先：ドイツ
期間：平成9年7月19日～平成9年8月13日
出張目的：“第9回有機合成を指向した有機金属化学に関するシンポジウム”に出席し「ラセミ体置換シクロヘキセンオキシドのキラルナリチウムアミドによる速度論的光学分割」について研究発表を行った。その後、Max-Planck 協会医学研究所を訪問し、生体内反応モデルとなるニコチン酸エステル部位を有するシクロファン合成について、当研究所の研究者と議論を行った。また、当研究所が所有する高真空条件下での有機化合物の熱分解装置を用い、シクロファン合成の反応条件の検討を行った。

氏名：栗田進（知能物理工学科）
出張先：中国
期間：平成9年8月10日～平成9年8月23日
出張目的：第7回アジア太平洋物理学国際会議（北京）に出席し、研究発表を行うとともに、アジア各国との研究交流を行って来ました。物理学の国際会議は欧米先進国で行われ、これまでアジアの研究者と交流する機会が

ありませんでした。今回、実に多くの研究者と交流でき、留学生の母国がどのような状態にあるのかを知ることが出来ました。また、国大留学や共同研究の希望が沢山寄せられましたので、国大の現状を詳しく説明してきました。

氏名：雨宮尚之（電子情報工学科）
出張先：中国
期間：平成9年10月19日～平成9年10月25日
出張目的：今回、本会からの助成を得て、第15回マグネット技術国際会議に出席し、超伝導応用についての研究成果の発表を行った。一つ目の発表は、大電流量化のために複数本の超伝導線を撚り合わせた導体において、超伝導（素）線間の接触抵抗が素線間の電流分布、ひいてはクエンチ（超伝導状態が壊れる現象）に与える影響について実験的に調べたものである。2番目は、高温超伝導体の交流損失の有限要素解析に関するもので、ツイスト（撚り）の損失低減効果を定量的に明らかにしたものである。いずれの内容も、超伝導の大型応用のキーポイントに関するものであり、発表内容を踏まえて各国の研究者と討議を行い、今後研究を進める上で有益な指針を得ることができた。

2. 海外研究者招聘

氏名：池田尚治（建設学科）
招聘者：中国 華南理大学、
黄培彦 教授
期間：平成9年10月1日～平成9年12月31日
招聘目的：黄培彦教授は、横浜国立大学において工学博士の学位を1990年に取得し、現在、橋梁工学を専門とする中国の学者である。中国においては現在長大橋が盛んに建設中であり、共同で橋梁の寿命予測と施工法の研究を行うために招聘した。ICOSSAR'97（神戸）における討議、専門誌「橋梁と基礎」誌への原稿の執筆、日本の長大橋の現地調査を行ない大きな成果を得た。

3. 研究助成

氏名：横山 幸男 (物質工学科)

研究課題：汎用型 HPLC による生体関連有機陽イオンの定性定量法の確立

研究成果 汎用の高速液体クロマトグラフを用いた概要：アミノ酸分析システムの開発は、ランニングコストの低減などの利点があり、その意義は大きい。本研究では、市販の ODS シリカ逆相カラムにヘキサデシルスルホン酸を疎水吸着させたカラムを用いてアミノ酸を分離し、多波長検出器により定性定量する方法を検討した。りん酸酸性のエチレンジアミン陽イオン分離系における、ヒスチジン誘導体など塩基性アミノ酸の選択性は、市販の低交換容量陽イオン交換樹脂カラムに比べて優れ、分離の再現性、定量性も十分であった。また、一価陽イオンとなる疎水性アミノ酸、核酸塩基、生理活性アミンなどもこの分離系で同時に溶出したが、多波長検出による紫外吸収スペクトルからそれぞれ同定可能であった。本法は、生体関連の紫外活性有機陽イオンの汎用分析法として実用的なことを明らかにした。

氏名：吉田 綱市 (建設学科)

研究課題：パリのアール・デコの建築に関する研究

研究成果 1920～30年代のパリに典型的なアール・デコのスタイルをもつ建物を数多く設計して建ててはいるが、その経歴がはつきりしない建築家 Jean Boucher について、文献上での探索と現地での調査を行った。その成果はつぎの通りである。まず、彼の設計になる建物がパリ市内に68棟、パリに接するブローニュ＝ビヤンクール市に3棟あることが確認された。この驚くべき多作さは、彼が建築家としては珍しく法学の学位を持ち、その法律の知識を生かした半ばデベロッパー的な存在であつたらしきことと相応する。また彼の建築家の資格はフランス建築家協会から与えられていることが判明したが、これは彼が建築の高等教育を受けなかった独学の建築家たる可能性が高いことを意味する。

4. 学生に対する奨学金援助

(1名 年間48万円)

奨学生氏名	課程	年次	専攻名	指導教官名
山本 英	博士課程後期	2	生産工学	鳥居 薫 教官
八木 宏 昌	〃	1	物質工学	阿久津 秀雄 教官
横田 雅 幸	〃	1	計画建設学	高見沢 実 教官
赤津 観	〃	1	電子情報工学	河村 篤男 教官

賛助会員名簿

平成10年6月1日現在

法人会員（口数・学科・50音順）

担 法人名	口数	金額(千円)
A 東京計装(株)	4	200
B 日本フィルター(株)	4	200
B 富士化水工業(株)	4	200
D 清水建設(株)横浜支店	4	200
D (株)竹中工務店横浜支店	4	200
A (株)いすゞ中央研究所	2	100
A 東芝プラント建設(株)	2	100
A 日本信号(株)	2	100
B (株)金陽社	2	100
B 大日本インキ化学工業(株)	2	100
B 日清製油(株)	2	100
B 日本ゼトック(株)	2	100
B 日本曹達(株)	2	100
C 藤森工業(株)	2	100
D 和同建設(株)	2	100
A コマツ電子金属(株)	1	50
A 大同メタル工業(株)	1	50
A (株)日立情報ネットワーク	1	50
A (株)不二工機	1	50
B 中央化学産業(株)	1	50
B 日本メクトロン(株)ケミテック事業所	1	50
C 東海アルミ箔(株)	1	50
D (株)大林組横浜支店	1	50
D (株)熊谷組横浜支店	1	50
F (株)デンソー	1	50
A 旭エンジニアリング(株)	1	50

個人会員（口数・学科・50音順）

担 個人名	口数	金額(千円)
B 原田 明	300	3,000
E 田 辺 昇 一	10	100
P 生産工学科	10	100
P 電子情報工学科	10	100
P 物質工学科	10	100
B 富 永 京三郎	5	50
P 知能物理工学科	5	50
P 建築学教室	4	40
B 遠 藤 一 郎	2	20
C 後 藤 正 夫	2	20
E 竹 沢 荘 一	2	20
P 船舶海洋工学教室	2	20
P 土木工学教室	2	20
A 阿 部 實	1	10
A 小 林 忠 夫	1	10
B 秋 葉 重 信	1	10
B 片 岡 修	1	10
B 川 田 淳一郎	1	10
B 澁 谷 晴 男	1	10
B 鈴 木 勲	1	10
B 三 須 義 次	1	10
C 石 井 浩	1	10
C 角 健 三	1	10
C 萩 原 忠 臣	1	10
C 藤 見 真 広	1	10
D 小岩井直和	1	10
D 元 廣 友 三	1	10
E 小 野 政 雄	1	10
E 河 面 良 治	1	10
E 佐野川谷安太郎	1	10
G 渡 部 茂 樹	1	10
P 板 垣 浩	1	10
P 中 山 春 夫	1	10
P 野 村 東 太	1	10
P 広 田 穰	1	10
P 山 口 惇	1	10
Q 佐 藤 菊 正	1	10
Q 豊 倉 富 太 郎	1	10

前理事長 高野山太作氏ご逝去

高野山太作前理事長を悼む

財団法人横浜工業会前理事長高野山太作氏は去る5月25日、享年84歳で長逝された。

前理事長は流量・レベル計測機器のトップメーカー東京計装株式会社を設立し代表取締役社長として活躍された。

昭和55年、横浜国立大学工学部発展のために文部省の推奨を受けて財団法人横浜工業会設立を図り、基金募集推進委員長として活躍し、昭和61年度には目標額（2億円）を越す2億6千万円の募金に成功した。

平成2年4月中川初代理事長の後任として2代理事長となり、横浜国立大学工学部創立70周年及び（財）横浜工業会設立10周年記念事業として（財）横浜工業会充実のために賛助会員制度を導入し、工学部の教育研究助成事業の拡充を実施した功績は内外に高く評価された。平成6年3月に2期4年間の任期を果した。

の任期を果した。

前理事長は常に母校の発展に全力を尽くされたことに心から感謝すると共に横浜国立大学工学部卒業生の大先達であった高野山太作先輩のご冥福を心からお祈り申し上げます。

（財団法人横浜工業会理事長 佐藤菊正）

高野山太作氏 略 歴

大正3年5月12日生

昭和11年3月30日 横浜高等工業学校機械工学科卒業

昭和11年4月1日 株式会社 日立製作所

昭和12年5月1日 東京機器工業株式会社

昭和29年11月18日 東京計装株式会社設立

代表取締役社長に就任

昭和54年11月3日 藍綬褒章受章

昭和60年11月3日 勲5等双光旭日章受章

支 部 ニ ュ ー ス

横浜工業会東海支部

①昨年秋（平成9年9月27日）各務原市内にある天竜工業（株）本社工場見学会を実施。参加35名。航空機々体部品・航空機や新幹線用の旅客シート等の製作工程を見学。

工場見学の後、同市内の航空宇宙博物館へ。STOL実験機「飛鳥」その他の実機に触れたりヘリコプター等の操縦シュミレーターで遊んだり、一同楽しい一日を過ごした。特に、川崎航空機（株）を退職したベテランが親切に説明する等は、従来の博物館には見られないユニークさを感じた。

②平成10年3月13日当支部総会・懇親会を開催。従来は昼間に開催したが、今回は若手の参加を促すため夕刻開催に変更して講演会を省いた。出席者51名は、昨年比10名の増加、一応目的を達した。

③かつて東海支部長として横浜工業会発展に貢献された近藤義治氏（建築工学科昭和11年卒、勲4等旭日章）が、脳梗塞のため平成10年5月9日に永眠されました。合掌

横浜工業会本部並びに当支部発展の為、今後共努力研究に励みたい。同窓生の皆様からのご協力ご鞭撻をお願いする次第です。（事務局 上川）

横浜工業会近畿支部

近畿支部では恒例の本年度年次総会を平成10年1月31日（土曜日）午後3時より、大阪市内「リバーサイド・ホテル」において開催致しました。その状況は次のとおりでありました。

来賓には大学より板垣浩学長、広田穰工学部長、工業会本部より佐藤菊正理事長、及び東海支部代表の各氏をお招きし、各来賓よりお言葉を頂戴し、煙洲会代表幹事・村松四郎氏（電化18年卒）に講演を依頼したりして、和気藹々の内に終了しました。

尚、この日の参加者は53名でした。総会開催の為、事前に十分調査して、会員全員に開催通知を発送致しましたが、住所変更等による未着返送が相当数あり、支部事務局においては会員名簿の整備が目下の急務と考えており、会員のご協力を期待しております。

また、支部会員の世代の交替も激しいので、低年次卒業の若手の幹事の出現を期待しておる所でもあります。（記・藤見眞廣・電化18年卒）